

二松学舎大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
平成20年7月31日発行
(第61号)
二松学舎大学父母会
(本部)東京都千代田区三番町6番地16
(事務局)千葉県柏市大井2590
〒277-8585 TEL.04(7191)8756
二松学舎大学植教学課
題字は
故 観山貞廣常吉先生書



平成二十年年度
定期総会開催



佐藤一樹教授による講演

平成二十年五月三十一日(土)、九段校舎・四〇一教室において、平成二十年年度二松学舎大学父母会定期総会が開催された。

総会に先立ち、本学国際政治経済学部教授佐藤一樹先生による「二松学舎大学が実施しているCOEプログラムについて」と題した講演会が行われた。午後二時三十分、

福井文子氏の司会で総会を開会、清水会長の挨拶、大学代表の今西学長と大山理事長がそれぞれ挨拶した後、多田博子議長により議事に入った。

第1号議案の平成十九年度事業報告並びに決算は、審議の結果原案どおり承認された。

第2号議案の平成二十年役員選出では、会長に山岡英夫氏、併せて、会計監査に新澤雅子氏・坂巻祐子氏が選出された。

第3号議案として、平成二十年度事業計画並びに予算が審議され、それぞれ承認された。

議事終了後、平成十九年度末で役員を退任した清水忠氏・寺崎美智子氏・小川実千江氏・雨海洋子氏に今西学長から感謝状及び記念品の贈呈があった。

また総会終了後、十三階ラウンジにおいて懇親会が開催され盛会のうちに終了した。



総会



総会後の懇親会



講演会

平成20年度 総会余滴

総会出欠ハガキの通信欄から、会員の方々のご意見をまとめました。紙面の都合によりすべてを掲載することはできませんが、ご了承ください。

Q、健康診断の結果を通知してほしい(国政二年)千葉県
A、毎年六月下旬に、学生宛に発送しております。

Q、総会のメール便が届いたのが十八日です。出席したかったのですが、急な事でどうすることも出来ませんでした。もう少し早く届くようにお願いいたします。(国政三年)千葉県



総会

Q、昨年度参加し、総会及び講演会
A、総会案内については、発送の際印刷業者の不手際があり、お届けするのに時間がかかってしまいました。ご迷惑をおかけしました。今後、迅速にご案内できるよう注意いたします。

Q、父母会の際に二松学舎ロゴ入りお菓子(松風)等の物品を販売していただけではないでしょうか。特に「松風」はお土産に良いと思うのですが。(国文四年)神奈川県
A、平素は、九段校舎地下二階売店で、販売しています。是非ご利用願います。今回の定期総会において「松風」を配布させていただきました。



懇親会(新役員紹介)

Q、在学中に必ず参加したいと思っております。父母会定期総会準備ご苦労様です。(中文二年)福島県
A、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いたしました。

Q、在学中に必ず参加したいと思っております。父母会定期総会準備ご苦労様です。(中文二年)福島県
A、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いたしました。

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
山 同 英 夫	会 長	3年	幸 田 類	委 員	2年
大 寺 龍 彦	副 会 長	2年	嶋 村 育 美	委 員	2年
渡 邊 了 好	副 会 長 (学務局長)		堀 川 智 子	委 員	1年
新 澤 雅 子	会 計 監 査	4年	栗 田 順 子	委 員	1年
坂 卷 祐 子	会 計 監 査	3年	塩 澤 尚 子	委 員	1年
星 野 早 苗	委 員	4年	月 木 美 世 香	委 員	1年
福 井 文 子	委 員	3年	竹 田 津 昭 彦	委 員	1年
多 田 博 子	委 員	3年	篠 塚 義 光	委 員	1年
桐 原 利 之	委 員	2年			

平成20年度役員

平成20年度 二松学舎大学 父母会定期総会議事録(抄)

日 時:平成20年5月31日(土)13:30~17:20
場 所:九段校舎 401教室
講 演:「二松学舎大学が実施している COEプログラムについて」
二松学舎大学教授 佐藤 一樹先生
出席者:本年度会員数 2,997名
委任状 948名
出席者 51名 合計999名

大学側:今西学長、大山理事長、渡辺副学長、渡邊学務局長、井上教学部長、高柳柏教学部長、志村教学課長、菅原柏教学課長、村瀬柏教学課員

1. 開会の辞 司会 福井文子
司会者より「本日総会時の会員数は、2,997名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて600名の出席が必要となる。本日の出席者は51名。委任状は948名。合計999名なので、本日の総会は成立する。」との説明があった。
続いて、清水忠父母会長、今西幹一学長、大山徳高理事長からそれぞれ挨拶があった。

2. 議長指名
司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなり、会長より多田博子さんが指名されているので、多田議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、多田氏が席についた。

3. 書記・議事録署名人名指名
多田議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。
書 記 高須文子氏
議事録署名人 大寺龍彦氏、桐原利之氏

4. 議事
◇第Ⅰ号議案 <平成19年度事業報告並びに決算>
清水会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて寺崎・新澤会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第Ⅱ号議案 <平成20年度役員選出>
多田議長から、会則第6条・8条に基づき、総会において役員(会長・会計監査)を選出することとなっているとの説明があり、

その選出方法について語られた。選出方法が議長に一任されたのを受け、多田議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼を受けた大学側(渡邊学務局長)より次の各氏が推薦された。

会 長 山同英夫氏
会計監査 新澤雅子氏 坂巻祐子氏
多田議長が大学側から推薦された各氏について語ったところ異議なく承認された。
続いて山同新会長より就任の挨拶があった。

◇第Ⅲ号議案<平成20年度事業計画並びに予算>
山同新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ今西学長より感謝状と記念品が贈呈された。
清水忠氏、寺崎美智子氏、小川実千江氏、雨海洋子氏

5. 閉会の辞 司会 福井文子

◇懇親会
九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。17時20分、盛会のうちに終了した。

<<定期総会資料訂正>>
平成20年度二松学舎大学定期総会資料(4頁)に誤植がございますので、下記のとおり訂正をお願いいたします。

<Ⅱ> 平成19年度二松学舎大学父母会決算書
支出の部(事業費)

(誤)

項 目	予算額	決算額	比較増減(△)	備 考
11 印刷活動に関する経費	2,000,000	215,500	1,483,400	ホームページの充実

↓

(正)

項 目	予算額	決算額	比較増減(△)	備 考
11 印刷活動に関する経費	2,000,000	215,500	1,483,400	ホームページの充実

大学に入学して



桜花爛漫の四月の入学式からはや三ヶ月余、七四七名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たに出会う、様々な経験を得た学友が二松学舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科から三名の新入生に書いてもらいました。



国文学科

菅野 さおり

糊の効いたスーツ、履き慣れない黒い革靴。何べん鏡を覗いても違和感は拭えなかった。入学式から早三ヶ月、桜は散り新緑の花が色付きだしている。何もかもが新しく、やつのことで追いつく日々が続いたが今では居場所を見つけ残るか余裕を持つて生活できる様になった。

生活とは読んで字の如く、生きて活動することだ。親元を離れ一人暮らしやアルバイトを始めて、それが如何に大変なのかを実感した。どうやら私が思っていたよりも世界は忙しいものだった。全く迂闊なことだがそれに気付かずには過ごしてきた。全く幸せなことに当然のものとして緩慢に享受してきた。

社会に出るまであと四年である。中学、高校と卒業がせまってくる度時の流れの速さに驚いた。きつとこの四年間もあつという間に過ぎてしまふのだろうかと思っている。限られたこの猶予期間に私達は何を学び、何をやるのだろうか。

大学に入り、まず今までの違いを大きく感じたのは、授業の専攻だった。自分の興味のあるものを自分で選び取る。今までの与えられる学びとは違って、自由に選択できる喜びを感じる。しかし自由だということとは、全て自分しだいだという責任も伴っていると思う。

次に違いを感じたのは、本当に色々な人がいるということだ。出身も年齢も考え方も様々な学生が集まっている。私は自分と異なる考えを持つ人とも、積極的に話してみたいと思っている。他の意見を聞くということは、自分の考えをまた深めることに繋がっていると思うのだ。

この四年間という短い期間に、人や文学との数ある出会いを通して、私はより多くの窓口を設け、大学に入る前よりも、人間的に豊かになれると思う。



中国文学科

高橋 俊

私は他の人たちと違って立派なことを書けないので御了承下さい。出身地秋田から期待と不安と生活必需品を持ち上京した三月二十三日。その日から入学式まで毎日の如く行われた私のスーツ着用ショー。とても興奮した状態で無事入学式を終えたのですが、友達がいなくてへの不安は隠せませんでした。授業開始日まで行われたオリエンテーションを通して幾らか友達は出来たのですが、それでも足りませんでした。そこで感じたのが大学ではコミュニケーションを積極的に行うことが大事だという事です。どんなときでも自己を表現しきれないとどんな職種にも対応できないと思ったので、それから知らない人ともどんどんコミュニケーションを取るようになりました。

私にとって大学は見識や経験、技量を取得、高める場所であると考えています。お金をたくさん注ぎ込んでいるので、元手分積極的に動き自己を高めていこうと考えています。私の座右の銘が「日々精進」なので

でもとても一日が大事であります。なのでいつも忙しく過労死するくらい頑張りたいです。大学生だからと言って楽しみたいたいなどと言うなら今までの受験勉強や両親をはじめとする周りの配慮、気づかいは無くなるでしょう。だから私は今、己にムチをうって勉強、部活動に励むことで恩を返したいと考えています。だから私は特別に大学へ通うことに苦勞というものを考えていませんし、むしろ毎日、何か発見してやろうとする野心で漲っているくらいです。

私は、多分というか絶対向いていないと思います。教師になりたいと思っています。私のセールスポイントは一番国語が苦手だったということです。その分一番勉強したのが国語でもあるからです。今、本当に自分が二松学舎に入って良かったと思います。それは、一番苦手だった国語を子どもに教えるチャンスがあるからです。しかし、まだ「チャンス」なので、それを生かせるようにこれから大学生活を精進したいと思います。



国際政治経済学科

登 柳 正太

高校を卒業して大学に入るまでの一ヶ月弱、私は不安でした。あれこれと不安でしかたありませんでした。授業は難しいのだから、友達はいくらでもできるだろうかと、サークルは楽しめるだろうか、色々挙げたら切りが無かった。等々言っても一番不安だったのが目標が無かったことです。入学してから何をしようか思いつかず、ただ毎日過ぎていくのがとても、もったいない気がしました。

しかし、いざ入学してみると思っていた程授業は難しくなく、というのも先生がしっかり教えてくれるので、授業は面白いのです。ただ、高校時代にはなかったレポート課題に馴れずとまどつています。友達もすぐには合いません。大学は四年間なのでこれからは友達を増やしていき、振り返った時に楽しかったと思えるようにしたいです。

そして、大学生活で一番大事なことはやはり目標だと私は思いました。入学当初私は色々な人に相談をしました。カウンセラーの先生方や

キャリアセンターの方々にはアドバイスをいただき、今では将来新聞記者になるという目標が見えました。今はその目標に向かって日々勉強をしていますが、目標があれば日常に張りがあります。自分は今、頑張っているのだなというような実感が持てるので次の日も、次の日も続けて精進することができます。

高校での三年間はあつという間でした。しかしそれよりも、今の大学の生活の方がもっともつと早く感じています。気が付くと次の日が金曜日だったり、本当に一週間が短く思えます。そうするとふとした瞬間がとても大事に思え、益々目標に向かう気持ちが強くなります。

大学の生活、この毎日を楽しんでいこうと思えば、絶対悔いは残らないと思います。だから、遊ぶ時は遊び、勉強は勉強という風にメリハリをつけることが重要だと思っております。今はただ精一杯毎日を楽しんでいこうと思っています。四年後に後悔は残さず、残さず。

POP!GUTS!2008 開催

柏祭POPを終えて
一年 大谷綾佳

学生会執行委員会が、五月に務めております一年の大谷綾佳です。六月二十二日に柏校舎で開催されましたPOPについてご報告させていただきます。

今年には学生会に携わる一年生が多く加わり企画数が増え、各団体とも一団となって沢山の企画で準備を進めてきました。

主な企画内容としては、五号館食堂前で行う緑日とお餅つき、食堂内のかき氷販売と休憩所での飲料の提供、一号館校内ではスタンブラリーと文化団体の展示に加え、五〇一教室で学生会管轄のステージイベントを行いました。動きのある催し物としてアラオに扮した役員が担いだ御神輿が一号館内を練り歩いて、お餅を配り歩くという企画もありまし

関係です。特に信用金庫への内定が多いようです。次いで商社への内定です。中堅企業だけでなく、大手企業にもかなり内定している。それらの学生に共通していることは、(1)キャリア教育を受講している、(2)就職特別講座を受講している、(3)三年生の時からキャリアセンターを利用して、そして何よりも、大学の授業を真面目に受講していること。就職も大学の授業抜きではないので、



今年POP関係の連絡事項において、メール連絡

今年は大谷綾佳が担当した飲食関係の企画では、V O G E L R . S . C . の御協力のおかげでお餅つきを円滑に進めることが出来ました。調理関係でも、V O G E L R . S . C . が主体となつてやって頂きとても助かりました。このような行事を通して、各団体との友好関係を築くこと、つながりの大切さを実感しました。

今回POP関係の連絡事項において、メール連絡

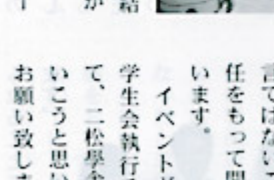
が主になってしまっていた文化団体の皆さんと顔を合わせる事が出来、十一月に行われる創縁祭に向けて、団体の皆さんとの関係を深めていくきっかけにすることが出来ました。

そして創縁祭だけでなく来年のPOP開催時にも各団体との関係を大切に、運営する側として円滑に回し行きたいと思っております。

柏祭(GUTS)を終えて
一年 安達 悠

学生会執行委員会にて一年の安達悠です。

多くの人々の協力により、無事GUTSを終える事が出来た事を嬉しく思っています。特に大きなアクションも無く、ソフトボール、バスケットボールの試合を進行的に進め、二日目は、残念ながら天候に恵まれませんでした。スミーズに日程を終了する事が出来た。



今年POP関係の連絡事項において、メール連絡

は、例年よりも大幅に多く、一つの種目に対し多くの人員を割けました。これはとても良かったと思っております。

全体としては本当に今年のGUTSは成功したと言えますが、それと同時に多くの反省点も見つかりました。その反省を来年に活かしていきたいと思っております。

各競技の参加者の皆様も、私達の決めた日程にそって行動して下さいました。参加者の皆様の協力があった初めて、私達は運営が出来ると実感しました。

私達一年生にとってこの柏祭は、初めての大きなイベントでした。先輩達のを大いに借りつつも、無事終了出来た達成感、何物にも代え難いものでした。十一月には、より壮大なスケールの創縁祭があります。既に私も含め、学生会執行委員会はその準備にとりかかっています。二松生にとっては、通年で最も大きなイベントであると言っても過言ではないこの創縁祭の運営に、責任をもって関わって欲しいと思っています。

イベントどころだけではなく、学生会執行委員会のメンバーとして、二松学舎大学のために頑張りたいと思います。今後ともご協力をお願い致します。

キャリアセンターだより

本学四年生の就職活動も、五月半ばには一段落した感があります。しかし、内定を得ていない学生も一五〇名程はいるだろうと推測しています。キャリアセンターでは、未内定学生への支援として、七月五日と七月十二日の二回、学内で合同企業説明会を開催いたします。両日とも異なる企業が各三十社参加予定です。企業への就職希望四年生全員が内定するまで、万全の体制で支援いたします。

公務員希望四年生のうち、警察官(警視庁・千葉県警察・埼玉県警察)試験一次合格が十二名となっております。市役所試験等は、七月から九月にかけて試験が実施されます。

受験予定の四年生は、最後の追い込み中です。最後の追い込みを期待したいと思います。

今年の予定企業で多いのは金融

関係です。特に信用金庫への内定が多いようです。次いで商社への内定です。中堅企業だけでなく、大手企業にもかなり内定している。それらの学生に共通していることは、(1)キャリア教育を受講している、(2)就職特別講座を受講している、(3)三年生の時からキャリアセンターを利用して、そして何よりも、大学の授業を真面目に受講していること。就職も大学の授業抜きではないので、

キャリアセンターでは、様々な講座を実施いたしますので、必ず参加するように、お子様にお話し下さい。低学年からの準備が、希望を実現させるのです。(六月九日)

「新入生いらっさいい！」
「はじめまして」の方が多くいでしょう。学生会執行委員会の会長を務めさせていただいております。高橋圭介です。

今年の新入生歓迎式典は、昨年までのテーマ「Welcome祭」を改め「いらっさい」と称し開催いたしました。このテーマには、「学校全体で新入生を歓迎しよう」「学生生活最高のスタートをきってほしい」という気持ち、また部活動やサークルに加入してもらうという目標の意が込められたものです。

式典当日、そこには思いがけない光景がありました。受付開始時間になつていないにも関わらず、外にまで長い列をつくって待っていてくれたのです。主催する側にとっても、こんなに嬉しいことはありません。予想外の展開に多少バタバタしながらも、新入生にサウンドウィッチと飲み物を配り、式典スタートの時間を迎えました。

式典メインの各団体のステージ発表は合気道部から始まり、漢詩研究会や三番町などバラエティーに富んだもので、どの団体も迫力満



今年POP関係の連絡事項において、メール連絡

《五月女ゼミナール》

私達のゼミでは、中世の和歌を学んでいます。二年前から始まり、現在の四年生が六人、三年生が二人の真面目な学生が集った、アットホームなゼミです。ゼミの研究対象は、三年生と四年生で異なっており、三年生は「内裏百番歌合」を、四年生は「後撰和歌集」を読んでいます。聞き慣れない教材を扱っていても細やかな指導を受けられます。質問は気軽にできる雰囲気があります。和歌の研究は、作者はどのような人物なのか、一つ一つの言葉はどのようなイメージを持っているのかを詳しく研究し、考察することで理解を深めることができます。長期休暇における合宿期間中は、文学散歩として都内を踏査して見学したり、神保町の古書店街や神社と隅田川周辺の郷土資料館などを訪れました。

《押野ゼミナール》

現在、押野ゼミは四年生が一名、三年生が十四名となっております。新たに役員なども決めたことからゼミを盛り上げて良いゼミにしようという気持ちのある学生が集まってきたと思います。私達のゼミでは、ドイツに関する事であれば何でも研究対象としています。各受講生は、押野先生が所有している、本を読み、受講生の前で調べた事をレジュメにまとめて発表するという形で行っています。

ゼミ探訪

この発表終了後には、質疑応答の時間があります。発表者は、事前に、どのような質問がくるかなど予想し、調べておかなければいけません。ですが、押野先生のフォローもあるため、発表者のみならず受講生も良く理解する事ができます。現在、受講生は全員一回目の発表を終えたところです。発表内容も、「連邦制について」「ドイツの環境問題」「ドイツの食文化」「宗教改革」「クリスマスと文化史」「ヨーロッパにおけるキリスト教文化」「グリム童話」「日本人とドイツ人の相違点

語国文学会夏季大会等の他大学の学会へも足を運んでいます。そして、学内で行われた学会の運営にも携わりました。学会の後、著名な先生方と懇親会をする機会もあって、貴重な体験もすることができました。卒業研究は学生の自由な選択にまかされており、本年度は式子内親王、藤原家隆、慈円、後鳥羽院、藤原為家、藤原俊成と各自バラエティに富んでいます。

「日本語と日本人」「ドイツ・サッカー」というように実に多岐にわたっています。次の発表からは次年度の卒業論文の土台となるような研究発表が課せられます。ドイツの何について調べるか、課題は人それぞれですが、夏休みを挟んでじっくり考えたいと思っています。今年の夏には三年生にとつて初めてのゼミ合宿があります。色々なイベントを企画して、いい思い出になるような合宿にしたいと思っています。

られることに、ゼミの醍醐味を感じます。



学生相談室

だより61

カウンセラー 奥野 光

相談に来た学生さんとお会いしていると、授業の合間の時間をここで過ごしているのだから、と気になることがあります。学生ホール、学食、図書館、研究室、あるいは屋外のベンチなど、場所ならいろいろありますが、過ごす場所があるか、しかもその場所が自分にとって心地よい「居場所」であるかどうか、ということは、学生生活の質に深く関わってきます。

合わせをしたり、授業の空き時間を過ごしたり、授業終了直後のパスは混み合うので、少し空くまでの時間を過ごしたりしているようです。友達同士で訪れる学生も、一人の学生もいます。談話したり、本を読んだり、ゲームをしたり、課題をしたり、お昼を食べたり、ただ休んだり、ちょっと眠ったりと、利用者全員が気持ちよく過ごせる限りにおいて、利用の仕方は自由です。春 semester には新生が多く訪れます。新しい学生生活に適應していく上で、フリースペースが足場になっているように、フリースペースを運営していきたいと考えています。まだ利用したことがないければ、一度のぞいてみてはいかがでしょうか。お待ちしております。

第一回役員会開催

平成二十年第一回役員会が、六月十四日(土)柏校舎で開催されました。当日は、山岡副会長をはじめとして新役員五名を含めた十三名の役員が出席しました。役員会では、本年度の役員業務分担(広報・企画)、年間活動予定、「二松学舎大学一三〇周年記念父母会図書寄贈要綱」、「二松学舎大学一三〇周年記念父母会奨学金支給要綱」について審議しました。次回役員会は七月の予定です。

編集後記

今年度も桜と共に始まり、早めの梅雨があり、早、花々や緑の美しい盛夏となりました。ここに多くの方々の協力により今年度の第一号をお送りできることを感謝します。会報は、年四回発行され、折々の本学学生や父母会に関するニュースをお届けすることになります。どうぞご愛読下さい。

二松学舎大学 漢詩コンクール開催

次のとおり漢詩コンクールの作品を募集しております。

募集 高校生、大学生

対象 作詞部門 七言絶句

鑑賞部門 唐詩のうち一作品

表彰 優秀作品には賞状と盾ならびに賞品を授けたいと思います。

応募期間 平成二十年九月一日(月)～九月十二日(金)

詳細につきましては、大学ホームページをご覧ください。

また、父母会ホームページには、会報のバックナンバーや会報に掲載できなかった写真なども多数掲載されています。コーナーとしては、年間スケジュール、地区別父母懇談会、大学行事等への助成、卒業生に対する助成、父母会報の発行、外国人留学生支援に関する助成などがありますので合わせてご覧ください。

今年度の地区別父母懇談会も六月から七月にかけて開催され、懇談を通して大学教職員と父母との相互理解を図ると同時に、大学の現状、学生の大学生活の実情、単位修得等勉学の状況説明などが行われ、大勢の父母の参加により有意義なものになったと思います。

父母会では、父母の皆様からの投稿をお待ちしています。投稿の量によつては、欄をつくらせて載せていきたいと思っております。では楽しい夏を、

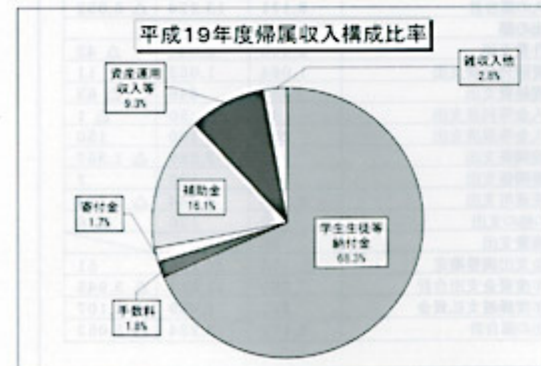
別表1 消費収支計算書 (単位:百万円)

科目	平成19年度	平成18年度	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,736	3,775	△ 39
手数料	100	99	1
寄付金	93	34	58
補助金	879	868	11
資産運用収入	332	270	62
資産売却差額	176	43	133
事業収入	4	1	3
雑収入	147	130	17
帰属収入合計	5,467	5,220	248
基本金組入額合計	△ 1,769	△ 1,009	△ 760
消費収入の部合計	3,698	4,210	△ 512
消費支出の部			
人件費	2,816	2,818	△ 2
教育研究経費	1,404	1,377	27
管理経費	477	367	110
借入金等利息	50	32	18
資産処分差額	8	19	△ 11
徴収不能額	1	3	△ 3
消費支出の部合計	4,755	4,616	139
当年度消費支出超過額	△ 1,057	△ 406	△ 651
前年度繰越消費収入超過額	3,594	4,000	△ 406
基本金取崩額	500		500
翌年度繰越消費収入超過額	3,037	3,594	△ 557

別表3 貸借対照表 (単位:百万円)

科目	平成19年度末	平成18年度末	増減
固定資産	24,121	22,167	1,954
有形固定資産	14,512	12,480	2,032
その他の固定資産	9,609	9,687	△ 78
流動資産	2,754	4,005	△ 1,250
資産合計	26,875	26,172	703
固定負債	3,815	4,096	△ 282
流動負債	1,585	1,312	273
負債合計	5,399	5,408	△ 9
基本金	18,439	17,170	1,269
翌年度繰越消費収入超過額	3,037	3,594	△ 557
負債・基本金・消費収支差額合計	26,875	26,172	703

(注) 別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。



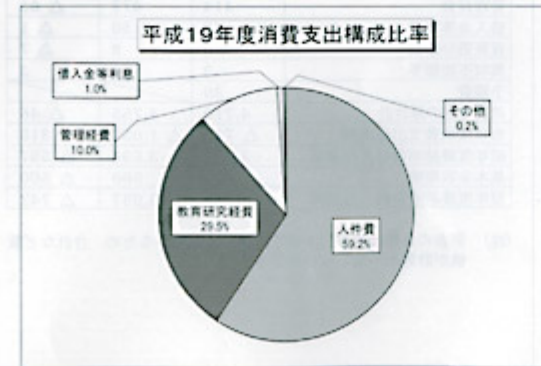
別表2 資金収支計算書 (単位:百万円)

科目	平成19年度	平成18年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,736	3,775	△ 39
手数料収入	100	99	1
寄付金収入	86	26	60
補助金収入	879	868	11
資産運用収入	332	270	62
資産売却収入	4,359	2,283	2,075
事業収入	4	1	3
雑収入	147	130	17
借入金等収入	0	1,201	△ 1,200
前受金収入	1,012	951	60
その他の収入	845	280	565
資金収入調整勘定	△ 1,119	△ 1,145	26
当年度資金収入合計	10,381	8,738	1,643
前年度繰越支払資金	2,843	3,518	△ 676
収入の部合計	13,224	12,257	967
支出の部			
人件費支出	2,848	2,804	44
教育研究経費支出	1,053	1,033	20
管理経費支出	446	335	111
借入金等利息支出	50	32	18
借入金等返済支出	100	101	△ 1
施設関係支出	2,289	392	1,897
設備関係支出	125	103	22
資産運用支出	4,944	4,582	362
その他の支出	126	156	△ 30
資金支出調整勘定	△ 166	△ 123	△ 44
当年度資金支出合計	11,814	9,414	2,400
次年度繰越支払資金	1,409	2,843	△ 1,433
支出の部合計	13,224	12,257	967

別表4 主な財務比率 (単位:%)

比率	計算式	平成19年度	平成18年度	18年度平均
人件費比率	人件費/帰属収入	51.5	54.0	52.9
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	75.4	74.7	84.7
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	25.7	26.4	29.6
管理経費比率	管理経費/帰属収入	8.7	7.0	9.7
帰属収支差額比率	帰属収入/帰属支出	13.0	11.6	5.3
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/帰属収入	68.3	72.3	62.5
固定資産構成比率	固定資産/総資産	89.8	84.7	83.3
固定比率	固定資産/自己資金	112.3	106.8	95.9
流動比率	流動資産/流動負債	173.8	305.3	301.0

(注) 「全国平均」は、日本私立学校振興・共済事業団集計による学生生徒数3千人以上の大学法人の平均を示す(108法人)。



学校法人二松学舎(二松学舎大学・同附属高等学校・同附属沼南高等学校)の平成19年度決算、20年度予算の概要を掲載いたします。

学校法人二松学舎 平成19年度決算の概要

平成19年度の状況

平成19年度の主要事業は、創立130周年を記念した大学九段集約のための九段新校舎建設校地の取得、大学柏校舎クラブ棟の耐震工事、同1号館のエレベーター設置工事、1・2・5号館のバリアフリー化工事、大学九段校舎図書館の整備改修工事、沼南高校西校舎防音関連工事、附属高校内装工事、その他必要な施設設備の整備等を行ったほか、当年度は創立130周年にあたり記念式典および祝賀会その他各種記念事業を実施した。また、大学九段新校舎建築資金として第2号基本金の組入れ(5億円)を実施した。

入学者の募集定員充足率は、大学院60%、学部121%、附属高校117%、沼南高校80%、合計108%(前年度105%)であり、在籍者の収容定員充足率は、大学院82%、学部127%、附属高校97%、沼南高校81%、合計111%(前年度114%)であった。全体では在籍者数の減少により学生生徒等納付金は前年度比減少となったほか130周年記念関連費用の増加があったが、昨年12月創設の「二松学舎教育研究振興資金」の募集開始により寄付金が増加したほか資産運用収入は昨年度に引き続き大幅増加となった。

平成19年度の決算概況

学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す**消費収支計算書**、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す**資金収支計算書**および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す**貸借対照表**から成っており、それぞれ別表1、別表2および別表3のとおりである。

1. 消費収支計算書について(別表1)

消費収支計算では、当年度帰属収入は54億6,700万円、基本金組入額は17億6,900万円、消費収入は36億9,800万円に、消費支出は47億5,500万円になり、10億5,700万円の消費支出超過となった。

消費収入では、入学者は附属高校で増加したが沼南高校・大学で減少となり、在籍者は大学(院)・附属高校・沼南高校で減少したことにより、学生生徒等納付金は前年度比減少となった。補助金は、経常費補助金は大学・附属高校が前年度比増加、沼南高校で減少となったが、大学のバリアフリー化工事補助金、沼南高校防音工事補助金等の交付があったほか競争的補助金の獲得などから全体では1,100万円増加した。また、資産運用等の収入は前年度比62%増、1億9,500万円の増加となった。消費支出では、教育研究経費は、予算策定段階ではほぼ申請どおり承認したことや創立130周年記念事業関連経費の増加、施設設備の整備管理費の増加、減価償却額の増加等により前年度比2,700万円増加した。管理経費は、創立130周年記念事業に係る広報費等の増加、学校案内パンフレット等印刷費の増加等により、前年度比1億1,000万円増加した。

2. 資金収支計算書について(別表2)

収入の部では、有価証券の売却により資産売却収入が前年度に比べ19億7,500万円増加した。授業料等学納金の前受金収入は前年度比6,000万円の増加となった。また、附属高校整備資金5億円の取崩し等により、その他の収入は5億6,500万円の増加となった。

支出の部では、人件費支出は退職者の増加により退職金支出が増加した。創立130周年記念および特別事業に係る支出により経費支出が1億3,100万円増加した。施設設備関連の支出は、校地の取得、校舎整備、備品購入等で24億1,400万円となり前年度比19億1,900万円の増加となった。資金運用のための有価証券の購入等は前年度比5億900万円増加した。そのほか第2号基本金、第3号基本金への組入れがあり、これらの結果、19年度末の次年度繰越支払資金は、前年度末より14億3,300万円減少し、14億900万円となった。

3. 貸借対照表について(別表3)

資産の部は、校地の取得、大学柏校舎の耐震、バリアフリー化工事、沼南高校西校舎防音工事及び中庭整備工事等の実施により、有形固定資産が増加した。また、売却等による有価証券の減少高2億8,000万円、施設整備のための特定資産が2億円増加したこと等により、その他の固定資産は前年度末より7,800万円の減少となった。流動資産は、土地の取得等により現金・預金が減少した。

負債の部は、私学事業団からの借入金返済により借入金が増加した。そのほか退職給与引当金が前年度比減少し、前受金(学納金)が増加している。

基本金の部は、土地等固定資産取得により第1号基本金組入額13億1,300万円(うち2号からの振替額2億4,500万円)、大学九段新校舎建築資金および沼南高校整備資金として第2号基本金組入額7億円(うち1号への振替額2億4,500万円)、附属高校整備資金の取崩額5億円、第3号基本金組入額100万円(奨学基金)により、前年度比12億6,900万円の増加となった。

これらの結果、貸借対照表は、平成19年度末で資産の部268億7,500万円、負債の部53億9,900万円、基本金の部184億3,900万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費収入超過額30億3,700万円となり、正味財産額は前年度比7億1,200万円増加して214億7,600万円となった。

4. 主な財務比率について(別表4)

財務比率は、概ね良好である。平成19年度は、消費収支関係比率では、人件費比率(帰属収入に占める人件費の割合)が前年度比低下したが、帰属収入のうち寄付金、資産運用収入の割合が高くなった結果によるためである。人件費依存率(学生生徒等納付金に占める人件費の割合)、管理経費比率(帰属収入に占める管理経費の割合)、帰属収支差額比率とも良好な水準を保っている。貸借対照表関連比率では、「固定資産構成比率」(総資産に占める固定資産の割合)、「固定比率」(自己資金に占める固定資産の割合)、「流動比率」(流動負債に占める流動資産の割合)は、大学校地の取得や資金を預貯金から債券などへシフトしたことなどから固定比率の割合が高くなっている。

学校法人二松学舎 平成20年度予算の概要

平成20年度の状況

本年度は附属高等学校が創立60周年を迎える。記念事業として、式典・祝賀会ほか各種事業を実施する計画である。大学では、新たに学芸員資格取得のための講座を開講し、地方入試の実施など学生募集対策の強化を行う。

キャンパス整備については、大学の九段集約に向け千代田区九段南の地に創立130周年記念新校舎の建築を開始する。柏キャンパスについては、大学柏校舎(創立130周年記念学生会館)(仮称)の建築、附属高等学校柏運動場の整備改修、附属沼南高等学校校舎の防音改修工事、同校創立40周年を記念した体育館の建替工事などを計画している。

教育研究の推進、教育の見直し、学生募集・広域体制の見直し、就職・キャリア教育の充実など学生の入口・在学中・出口の各対策、大学、各附属高等学校のキャンパス整備、人事計画の策定と組織の見直し・事務の効率化、財務改革など「21世紀二松学舎像の策定を目指すマスタープラン」に従って着実かつ段階的に実施する。また、法人の財務格付の結果を公表・活用し、自己点検・調査を実施するなど各種改善策を図ると共に、本学の知名度(ブランド力)の向上を通じて入学者の増大に結び付ける。

収入面では、補助金については、前年度に引き続き競争的補助金の獲得に努めていくほか昨年12月より開始した恒久的な寄付金募集体制(二松学舎教育研究振興資金)を収入の一助とするともに、安全性に配慮した資産運用を引き続き行い収入の多様化を通じて収益向上を図っていく方針である。さらに、財務改革の方策の一環として本学出資により立ち上げた事業会社(二松学舎サービス)を活用し、学生、教職員へのサービス向上に資する事業を拡大させ、収益事業の一環として対応していく。また、支出面については、事務組織の見直し、事務の効率化を図りつつ教職員の定員制の遵守を通じて人件費の削減を図っていくなど経費全般の見直しを行うことにより収支改善を図ることを平成20年度の予算編成方針とした。

平成20年度の収支状況

1.消費収支予算書について(別表5)

(1)消費収入の部について

- ①収入の柱である学生生徒等納付金は、前年度実績とほぼ同額の37億3,500万円となる見込みである。
- ②寄付金は、二松学舎教育研究振興資金の募集を柱として6,000万円を見込んでいる。
- ③補助金は、私立大学等経費補助金および東京都(附属高校)、千葉県(附属沼南高校)の経費補助金が減少となる見込みである。当年度は沼南高校校舎の防音工事に係る補助金を1億3,000万円程度見込んでおり、8億1,400万円を計上している。
- ④資産運用等収入は、安全性に配慮した資産運用を行い、4億2,100万円を見込んでいる。
- ⑤基本金組入額は、大学九段新校舎建築資金・附属沼南高校整備資金として7億円の第2号基本金の組入れを行い、固定資産の取得額である第1号基本金組入見込額と合わせて12億6,600万円を計上している。

(2)消費支出の部について

- ①人件費は、27億7,800万円となり、前年度に比べ減少となる見込みである。
 - ②教育研究経費は、施設設備の改善費用、情報システム関連経費のほか、附属高校創立60周年記念事業費(主に出版刊行物等)を繰り込み、14億3,500万円を計上している。
 - ③管理経費は、教育研究経費と同様に施設・設備の維持管理費と事務システム関連経費のほか、附属高校創立60周年記念事業費(主に広報費)を繰り込み、4億1,400万円を見込んでいる。
- これらの結果、純収入は52億3,300万円、基本金12億6,600万円組入後の消費収入合計は39億6,700万円、消費支出合計は47億1,000万円となり、7億4,200万円の消費支出超過となる見込みである。

2.資金収支予算書について(別表6)

収入の部は、寄付金収入、補助金収入、資産売却収入の減少等により、前年度に比べて減少の見込みである。また、支出の部は、資産運用支出の減少等により、前年度に比べて減少の見込みであり、収入・支出とも前年度に比べて減少となる見込みである。

別表5 消費収支予算書 (単位:百万円)

科 目	平成20年度 予 算	平成19年度 実 績	増 減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,735	3,736	△ 1
手数料	93	100	△ 8
寄付金	60	93	△ 33
補助金	814	879	△ 65
資産運用収入	421	332	89
資産売却差額	0	176	△ 176
事業収入	4	4	0
雑収入	105	147	△ 42
繰戻収入合計	5,233	5,467	△ 234
基本金組入額合計	△ 1,266	△ 1,769	504
消費収入の部合計	3,967	3,698	270
消費支出の部			
人件費	2,778	2,816	△ 38
教育研究経費	1,435	1,404	31
管理経費	414	477	△ 63
借入金等利息	48	50	△ 1
資産処分差額	2	8	△ 7
徴収不能額等	3	1	3
予備費	30		
消費支出の部合計	4,710	4,755	△ 46
当年度消費支出超過額	△ 742	△ 1,057	315
前年度繰越消費収入超過額	3,037	3,594	△ 557
基本金取崩額		500	△ 500
翌年度繰越消費収入超過額	2,295	3,037	△ 742

(注) 別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。

別表6 資金収支予算書 (単位:百万円)

科 目	平成20年度 予 算	平成19年度 実 績	増 減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,735	3,736	△ 1
手数料収入	93	100	△ 8
寄付金収入	55	86	△ 31
補助金収入	814	879	△ 65
資産運用収入	421	332	89
資産売却収入	1,407	4,359	△ 2,952
事業収入	4	4	0
雑収入	105	147	△ 42
借入金等収入	1	0	0
前受金収入	966	1,012	△ 46
その他の収入	210	845	△ 635
資金収入調整勘定	△ 1,049	△ 1,119	70
当年度資金収入合計	6,762	10,381	△ 3,619
前年度繰越支払資金	1,409	2,843	△ 1,433
収入の部合計	8,171	13,224	△ 5,052
支出の部			
人件費支出	2,806	2,848	△ 42
教育研究経費支出	1,064	1,053	11
管理経費支出	383	446	△ 63
借入金等利息支出	48	50	△ 1
借入金等返済支出	250	100	150
施設関係支出	932	2,289	△ 1,357
設備関係支出	132	125	7
資産運用支出	2,220	4,944	△ 2,724
その他の支出	120	126	△ 6
予備費支出	30		
資金支出調整勘定	△ 115	△ 166	51
当年度資金支出合計	7,869	11,814	△ 3,945
次年度繰越支払資金	302	1,409	△ 1,107
支出の部合計	8,171	13,224	△ 5,052